

「安心して住めるネズミのいない家」

谷川 力 著

新書版(講談社+α新書), 190ページ, ¥800
(講談社, 2006年11月20日発行)

著者の谷川力博士は、イカリ消毒(株)技術研究所の所長であり、我国の現役の「ネズミの生態研究」の第一人者である。ネズミスペシャリストが書いた本書は、「家住性ネズミ」に関する一般への啓発書としては“唯一無二”の価値ある内容に仕上がっている。

本書は、①日本にすみついた家ネズミたち、②ネズミの現代—その習性、性格、③あなたの家から徹底退治！、④ネズミによる被害、⑤殺鼠剤の効かない「スーパーラット」の誕生、⑥それでもネズミはいなくならない？という6章から構成されている。有史以来の人間と家ネズミとの歴史から現代のネズミ事情に関する章では、人と家ネズミがど

のように関わってきたかが平易に解説されており、哺乳動物や有害生物の研究者だけでなく、歴史学者や民族学者の好適な資料にもなることがうかがえる。退治法に関する章では、著者の所属するイカリ消毒の経験と実績を踏まえた説得力のある対策法が紹介されており、営業活動にも一役かっている。本書を読んだネズミ被害に悩む方々は、即、イカリ消毒に駆除を依頼するのではないだろうか？ 被害に関する章では、感染症や外部寄生虫についての解説と場所別の被害事例がまとめられており、これから家ネズミを研究しようとする学生や若手研究者の興味をそそる内容になっている。また、ネズミの被害件数が東京都下の武蔵野市や国分寺市で急増している現象は、東京直下型地震の発生が近いのではないかと考えさせられた。殺鼠剤抵抗性ネズミに関する章は、著者の長年の研究成果(学位論文の一部)が紹介されている。著者のライフワークともいえる研究であり、今後の研究の発展を大いに期待させられた。

本書は「クマネズミは、…環境問題、都市問題など、人々に訂正すべき問題を提起して、警鐘をならしている預言者のように見える」と述べて締めくくっている。本学会会員にも違った視点から見た「室内環境学」を考える上で、お勧めの一冊である。

(株)エフシージー総合研究所 環境科学研究室 室長 川上裕司)



電線を齧るクマネズミ (*Rattus rattus*)
著者の谷川力博士提供

都市部を中心にネズミ被害を起しているのがこのネズミ(体長15cm, 体重150g内外)